

生活のできる年末手当を！

賃金抑制計画の一環？

夏のボーナスは、回答の予定日になってもまったく回答のできない状況で、ようやく回答が出されたと思ったら1.1ヶ月の超低額回答でした。

会社は、熟慮した結果と言っていますが、これが「賃金抑制」の一環だとしたら許せるものではありません。

突如として出された「賃金抑制」の話。

鉄道部門が赤字だから賃金も含めてコストカットをしようと言っているものらしいのですが。

しかし、この間、貨物会社は、構造矛盾の中で社員の方の努力などで黒字を生み出す努力をしてきました。

その、社員やそれを支えた家族の努力はそこのけです。

見直すべきものが他にもあるように思えるのに赤字の責任を社員に転嫁することは許せません。

口先の返済がどきないなんて 二度どき免だ！



JR貨物に働く社員、家族の皆さん、冬のボーナス（年末手当）を会社に要求する時期になりました。

夏のボーナス（夏季手当）は、貨物会社発足以来、最低の1.1ヶ月と言う超低額回答でした。

『住宅ローンや教育ローンの支払いができない』、『生活設計が大きく狂わされた』などの声もあげられています。

この冬のボーナスは、会社が以前から主張してきた生活給の1.5ヶ月を大きく上回らなければ、私たちの生活は成り立たなくなります。

今こそ、声をあげ、生活のまともに行える冬のボーナスを勝ち取りましょう。



国鉄労働組合東海本部
国労東海貨物協議会

東京都港区新橋5-15-5
東交ビル
03-54403-1658
URL <http://www.kokurotokai.com/>

冬は1.4ヶ月??

夏のボーナス回答直後から「冬は1.4ヶ月確保した。これで賃金抑制もなくなった」などと言う話が聞こえてきます。

本当のことだとしたら、再び生活給の1.5ヶ月を割り込み、年度合計で2.5ヶ月です。

2.5ヶ月という数字、見覚えがありませんか。

以前、「賃金抑制」とともに出回った数字です。

これが本当だとしたら、社員や家族をバカにした話です。

夏の回答と同時に冬の回答も決まっているなどと言うことがあってはならないことです。

夏のボーナスでは、社員と家族の生活を守る責任組合と称する組合は、席上妥結をするありさまです。

国鉄労働組合（国労）は、密室状態で行われていた「賃金抑制」計画をあばきだし、夏のボーナス交渉においても、社員と家族の生活を守るために再回答を求めて闘ってきました。

国労は、1.1ヶ月の低額回答は妥結できる状態ではないとして、妥結に至りませんでした。

貨物会社は、妥結できなかった国労に対して『今後、妥結しなければ期末手当は支払わない』と『脅し』とも取れることを文書を以って通告してきました。

夏冬に出されるボーナスは、私たちににとっては、重要な生活を支える賃金です。国労としても妥結のできる内容なら妥結しました。

今回の冬のボーナスにおいて貨物会社は、出来しるしを止め、社員や家族の切実な声に耳を傾けるべきです。



何でも上がる、でも賃金は、ボーナスは?

この秋は、生活必需品や生活関連サービスなど何でも値上げが始まります。そして、いよいよ4月からは消費税の増税。家計は食料品値上げで食費が10%近くアップ、電気・ガス・水道の光熱費も10%アップ、その他にも教育費も上がり、マイカーを持っていたら自賠責保険も上がります。それらを合わせると消費増税後に年収300万円世帯は年間40万〜60万円、500万円世帯なら年間60万〜70万円という、年収の2割近くに相当する負担増を迫られるという試算も。

その上、冬のボーナスが昨年より低いとなると生活設計が立ちません。当然消費税には反対ですが、ボーナスをきちんと支払ってもらうことも生活防衛にとって大切なことです。